

建通新聞

足立議員

「日本の特性」を強調 インフラ整備水準 公共事業費の確保求める

自民党の足立敏之参院議員は6日の参院国土交通委員会で、政府が公共



足立議員

事業費の水準を欧米並みに引き下げてきたことに
対し「日本の地形は急峻
(きゅうしゅん)でイン
フラに占める構造物の比
率が高い。自然災害も頻
発しており、事前防災に
多額の費用が掛かる」と
述べ、対GDP比率を指
標とする公共投資の削減

に疑問を呈した。その上
で「日本が経済で一流を
目指すのならば、しっか
りした公共投資でインフ
ラの整備水準を先進国並
みにする必要がある」と
強調した。写真。

日本の公共投資がGDP
Pに占める割合は3・1
% (2012年度)で、
米国の2・
3%、英国
の2・2%、
ドイツの1
・5%と比
べて高い水
準にある。

は、この数値を指標に公
共事業費が削減されてき
たことに対し「日本の公
共事業費の特性を諸外国
と比べて考える必要があ
る」と問題提起。例えば、
地形が平坦な欧米で
は、高速道路の構造物
(橋梁、トンネル)の比
率が米国で7・0%、英
国で4・4%、ドイツで
10・1%だが、地形が急
峻な日本は24・6%と高
い。

前回の防災対策にも費用が
掛かる」と説明。個々の
インフラ整備が割高にな
らざるを得ず、GDP比
率を指標とした比較を改
める必要を強調した。
さらに「インフラ整備
に具体的な目標が定めら
れていない」とも指摘。
高速道路は「新たに求め
られる路線や4車線で整
備すべき区間を明示し、
日本の高速道路の完成形
を示すべき」と主張した。

他にも「地震国の日本
では厳格な耐震設計が求
められる他、水害・土砂
災害が頻発するため、事